

支援センター名	岡山市開かれた学校づくり推進協議会
所在地	〒700-8544 岡山県岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会生涯学習課内
連絡先	TEL : 086-803-1606      FAX : 086-234-4141  URL : <a href="http://city.okayama.okayama.jp/kyouiku/shougaigakushuu/school_volunteer/S_S_V_top.htm">http://city.okayama.okayama.jp/kyouiku/shougaigakushuu/school_volunteer/S_S_V_top.htm</a>

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口      岡山市    693,195人

岡山市は、北部の吉備高原に連なる山並み、児島湾干拓による広大な農地が展開する南部の岡山平野、市域を貫流する旭川、吉井川の二大河川、風光明媚な瀬戸内海などの豊かな自然環境に恵まれた都市である。また、山陽新幹線、瀬戸大橋、岡山空港、山陽自動車道、岡山自動車道など広域交通網の整備が進み、そのクロスポイントに位置する岡山市は、中四国の中核拠点都市として着実に発展を続けている。地域の歴史と文化を大切に、市民本位を全ての取り組みの基本に据えながら、都市格の高い、国際貢献をも果たしうる、活気あふれる「国際・福祉都市」を目指したまちづくりを進めている。平成19年1月には建部町・瀬戸町と合併、人口も70万人を目前に控え、政令指定都市を目指した都市づくりに邁進している。

## コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「岡山市学校支援ボランティア事業」

〔概要〕

岡山市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校での教育活動に、あらかじめ登録した地域の方々、保護者または学生などの様々な特技や趣味などを活かし、学校教育を支援していただく制度である。学校を地域に開き、学校・家庭・地域社会が連携して子どもたちの「生きる力」の育成を図るとともに、学校施設・機能の開放や地域の教育力の学校教育への導入を進めることで、地域住民のための生涯学習の場の提供と、学校教育の改善・充実を図る「開かれた学校づくり」の一環として、平成14年度に開始した。

平成14年度の登録者数は793人であったが、平成17年度末では学生も含め、2,063人が登録し順調に登録者数を増やしている。活動の分野は①教育活動支援②教師の補助③環境整備支援④学校安全支援の4分野となっている。

〔事業経過〕

平成14年度	学校支援ボランティア制度の導入 登録者数：793人
平成15年度	市内4大学・短期大学との連携による大学単位での登録開始 学校支援ボランティア研修会の開催 中学校区別ボランティア交流会の開催 大学生シンポジウムの開催 登録者数：1,462人うち大学生343人
平成16年度	大学との連携が市内6大学・短期大学に増加 学校支援ボランティア研修会の開催 中学校区別ボランティア交流会の全中学校区での開催 大学生シンポジウムの開催 登録者数：1,692人うち大学生568人
平成17年度	学校支援ボランティアの研修会の開催 ※大学生の研修会受講を義務づけ 大学生シンポジウムの開催 登録者数：2,063人うち大学生498人

〔特色〕

大学との積極的な連携が大きな特色である。平成14年度の20歳代の登録がわずか33人と低迷したことから、教職を目指す学生に、積極的に制度の活用を図ってもらうべく、平成15年度から現役学生の学校単位での制度加入を導入した。大学側と連携を取り、制度の趣旨等を学生に直接説明する機会を持つことによって、学生の理解が深まり、登録数が急増した。

また、平成17年度からは、研修会受講を必須とすることにより、制度を理解し、一般的な社会常識を含めた注意事項や、学校現場で活動する上での心構えなどについて、自覚を持たせ、活動を開始するようにしている。

最近では、連携していない大学の学生や教育学部以外の学生からも積極的な登録・活動が増えている。

さらに、毎年1月に学生の登録ボランティアを執行委員とした「学校支援ボランティア『大学生シンポジウム』」を開催している。このシンポジウムでは学生ボランティア、市立学校園の担当者、大学関係者を主とした出席者を前に、①学生ボランティア、②ボランティア経験のある教員、③ボランティアを受け入れている学校園の教員に、それぞれの立場から発表をしていただき、また情報交換等を行っている。学生にとっては自分たちの活動を振り返る場、学校園は学生の熱意を感じる場となっており、双方に良い影響を与えている。

## コーディネートの実際

### 〔概要〕

ボランティア活動までの流れは二つあり、一つは学校園から直接登録ボランティアに依頼し、活動に入るもの、二つめは学校園が「学校支援ボランティア依頼票」に希望するボランティア（一般か学生か）の種類、必要人数、希望日時、活動内容等を記入し、生涯学習課に送付する。その依頼票により、コーディネーターが、登録済の名簿から条件に合うボランティアに連絡を取った後、学校園に「学校支援ボランティア紹介票」を送付する。その後、学校園とボランティアの間で、活動内容、日時等を改めて相談していただき、活動に入るというものである。

一般の方については、学校園が地域で登録していただいているボランティアを既に把握しており、直接依頼することが多いため、コーディネーターへは主に学生への依頼が多い。依頼内容は、幼稚園では3歳児保育の補助、保護者会時等の未就学児の託児、小学校では障害児のサポート、中学校では基礎学力向上のための学習支援などへの依頼が多い。

### 〔コーディネート〕

コーディネーターは主に学生のコーディネートを行っているので、学生の場合について説明する。学生のコーディネートの方法としては三つある。一つは登録済のリストから希望する活動分野、内容、学校園等を勘案した上で、条件に近い方に対して連絡を取るもの。この方法は一般の方にも当てはまる。二つめは、研修会に参加した学生にその場で派遣先を検討してもらう方法である。三つめは、連携をとっている大学に学校園からの依頼一覧の掲示をお願いし、学生はそれを見て、行きたい学校園を生涯学習課に連絡する方法である。

特に二つめの方法は、学生と顔を合わせながら、依頼内容等を説明ができ、学生も疑問点を尋ねながら派遣先の検討ができるため、派遣先の決定が比較的スムーズにできている。

### 〔問題点・苦慮している点〕

学生の登録数が増え、紹介先が広がるにつれて、学校園からの学生のニーズは増大する一方であるが、大学、特に教職員養成課程を持つ4年制大学は市内中心部に集中しており、地域の広い岡山市では郊外の学校園の要望対応が難しい状況にある。

また、より多くの支援を必要とする幼稚園、小学校低学年については就学時間が午前中、午後2時くらいまでと短く、講義の時間と重なるため学生の確保が難しい。

対応としては、居住地、交通手段等を考慮に入れて学生へ依頼を行うようにしているが、日中はどうしても大学周辺が生活圏となるため、一部の学校園以外は希望する人数を派遣できていないのが現状である。

### 〔成果〕

この事業による成果は、ボランティアが学校に積極的に関わることにより、学校が「開いてきた」ということではないかと思う。ボランティアを受け入れた学校園からの感想で「外部の、それも将来的には自分たちの同僚となるかもしれない若者を職場に迎えることにより、

教員側も新鮮な刺激を受け、学校内の活性化につながった」といった声を数多く聞く。学生だけでなく地域の方も自分たちのできる範囲で学校に関わりを持っていただくようになって、学校側で学校外の人間を受け入れることに対し、抵抗感が薄くなっているようである。

また、子どもたちも、親や教員だけでなく、地域の方などからも温かく見守られているという実感を得ることができ、言動に落ち着きがでてきたということもあるようである。

ボランティアの方たちからも、「子どもたちとの触れ合いの中で元気をもらっている」「この活動が自分の生き甲斐である」という感想を多くいただき、学生からは、「教師を目指す学生にとって良い経験になる」「とてもいい経験になった。これからも続けたい」といった前向きな感想をいただいている。

こういった感想からも、学校園を地域に開き、現状を知った上で学校に関わってもらうことで双方が歩み寄り、さらによりよい方向へ学校運営が進められているのではないかと思われる。

#### 〔課題〕

学生、一般登録に関わらず、登録していても活動につながっていない方がまだまだ多い。学生は、申込書の提出のみで研修を受けておらず、未登録となっているものも多い。

活動につながらない要因として、学生は、学業、アルバイト、交通手段等により、一般の方は、活動分野が学校側の希望する内容と合わないことがある。

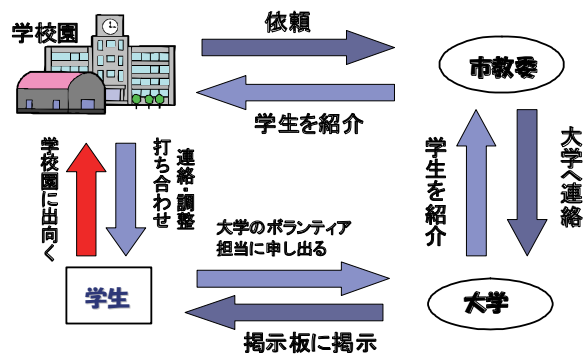
また、毎年度更新としているため、登録に研修受講を義務づけている学生については1～2ヶ月間程度の活動のタイムラグが生じており、4、5月のボランティアを必要としている時期に十分な対応ができていない。

#### 〔今後の改善点・留意点〕

学生ボランティアについての問題点に対しては以下の改善方法を検討している。

- ① 広報活動をさらに積極的に行い、制度の有用性をアピールすることが必要であると考えられるので、学生への配布物に学生ボランティアの感想や、学校園、子どもからの感想等興味を起こさせるものを掲載する。
- ② 学校園からの依頼内容を詳しいものにして、学生が具体的に内容を把握できるようにする。
- ③ 従来も研修未受講者に個別の研修会の案内を送付していたが、回数を増やす。
- ④ 2月から翌年度の登録も受け付けることとし、派遣先の学校園の担当者からも学生ボランティアに研修受講を周知してもらうように依頼する。

## 活動までの流れ



研修会の様子



学生ボランティアの活動の様子

執筆者職・氏名：岡山市教育委員会 生涯学習課 主事 大下 奈美枝